

## 幼稚園のための指導書

# 絵画製作目次(案)についての私見

川 口 四 郎

絵画製作の指導書は本年中にはお目見えするように聞く。昨年「幼稚園のための指導書絵画製作目次(案)」が公にされ、各地

のめばしい現場に流され、意見を求められたということである。どのような意見が集まったか、現場の声が委員会にどのように反映されたかなどについては私は何も知っていないが、ともかくここまで歩んできた委員会の御努力に対して敬意をほらいたい。

目次案について、私はある委員の一人に「ぎもんをただしたり私見を述べたりもしたが、ここに与えられた機会に私の感想や意見をまとめて、広く現場の先生がたの御批

判を得たいと思う。また場合によってはお考えの資料にしていただけならとも思う。

### 一 絵画製作の名称について

「絵画製作」という名称はこれでよいだろうかということを考えてみよう。

文部省は戦後、二十二年に保育要領を出した。

その中で、保育内容として(7)絵画、(8)製作を挙げている。戦前にも描くことを絵画、作ることを製作と呼んでいる向きもあったが、保育内容の項目として絵画、製作という名称が使われることになったのは二十二年以後のことである。

これについて私はこれまで機会があるたびに反対してきた。

1 名称が適切でない

2 絵画、製作が一本になっていないという立場からである。その理由は、1については、「絵画」は常識として専門的な絵画を連想するということもあり、製作は日本語ではいろいろな意味に使われている。絵画を製作するというような使いかたさえされる。製作を工作の意味に使うのは幼児教育の世界だけではないだろうか。幼児教育の現場ではこういうものだとして十年間使われてきたわけであるが、いっそう常識化され一般化されてもいけない。十年たってもなお不自然なものを感じる。

2は、新しく出た幼稚園教育要領により一応解決の形をとった。(指導書目次案によるとまだぎもんがある。これについては後に述べる。)しかし名称は依然としてそのままである。

二十八年大阪でおこなわれた全国図画工作教育大会(幼、小、中、高、大を含め毎年一回開かれる)においては、「絵画製作」は「造形」と改めるのがよいとの意見がま

とまり、二十九年仙台での大会ではそれを再確認した。このことについては文部省に報告、改正を要望してきた。

文部省のあるかたのお話では、絵画製作をきめるときある指導主事の意見を聞いたらいよいよということだった。また「現場からはもちろんよそからも別に反対の声はありませんよ」ということである。大体広く現場の声を聞いた上で絵画製作の名称が生まれたものでもないようである。またこういうことに関しては現場の方の関心は非常にうすく、積極的でない。一般の図工教育者もどうもおかしい名称だと思っていながら（私の知っている範囲のものはみな同意見である）直接関係がないので、考えることに熱意はもたない。このような現状にあることを特に頭においていただきたい。

絵画製作が絵画と製作でなく一体の形をとったことは一つの前進と思うが、指導書目次案をみると、実際には本当に二つがとけ合ったものとして取扱われていないことを感ずる。委員のかたがたの考えは依然として二本立てになっているのではなからうか。

## 指導書目次案に

### 第二章

- 2 絵画の方面からみた発達上の特徴
- 3 製作の方面からみた発達

### 第五章

- 1 絵画に使われる材料・用具
- 2 製作に使われる材料・用具

このようにあらわれていることは、二つのものが並んでいる考えから抜けきっていない。これでは見出しを一本にしても本質的に中味は二本立てになっている。一度両者を混ぜ、かきまわし、よく溶かして一つのものにした上、その中から必要な内容をまとめ、改めてとり出さなくてはなるまい。従来二つであったものをならべたに過ぎない名称であるための錯覚もあろう。このことは、小学校の図画工作でもどうように、今日まで問題になってきたところである。

絵画製作を本当に一本化して考えていくとすれば、どうしても一つのものと感じられるようすつきりした名称に改められなければならないと思う。

## 二 指導内容について

指導書目次案では指導内容を

- 1 絵をかく
- 2 物をつくる
- 3 形や色を知る
- 4 絵や物を見る

としている。内容の分類や意図はよく了解できるが、細部について気づく点を記してみよう。

「形や色を知る」の知るは適切と思えない。これだけが感覚的に体感することからはなれて、常識的な知覚を感じるからである。ここだけに特に知ると出したのは不自然ではなからうか。知的なものが必要であることはうなずける。しかし「絵をかく」「物をつくる」「絵や物を見る」場合には知的な面は考えなくてもよいのであろうかという疑問をもつ。

なお3の項には、形、色だけでなく、組み立てなどもっと巾の広い図案、構成の意味を感じとれるような名称にすることが望ましいと思う。

「絵をかく」の指導内容中に

四才児「クレヨン、パス類などで画用紙やラシヤ紙、ボール紙などに絵や模様をか  
く。」

五才児「色紙や布などをちぎったり切っ  
たりして、画用紙や布などにはり絵や模様  
に表現する。」

とある。ここで模様を常識的な絵の中に含  
めることは、指導内容を整理して考える上  
にはたいへん不自然である。模様はどうし  
ても図案の領域であるので「形や色」の中  
に含めるのが本来ではなからうか。それに  
しても「形や色を知る」では模様をその中  
に含めにくくなるということにもなる。

「絵や物を見る」で、絵だけを特に出す  
のはどんなものだろうか。絵を挙げるとす  
れば他にも挙げたいものが出てくるはずで  
ある。彫刻、工芸など。この内容は本質的  
には造形品を見る——鑑賞するということ  
であろう。自然の鑑賞を含めるとしてもこ  
れはあまりすつきりしない。

そこで私としては次のように整理してみ  
たい。

- 1 描画 または描く
- 2 工作 作る

- 3 図案 組み立てる
- 4 鑑賞 見る

### 三 目標について

指導書目次案をもとにして私見を加えた  
目標をここに記してみるので御批判を願  
いたい。

#### 描画(描く)

##### 3才児

- 1 描画材料に親しみ、描くことに興  
味をもたせる。

##### 4才児

- 1 見たこととしたこと、感じたこと  
などを表現することに興味をもつよ  
うにし、思想感情をさらけ出させ、  
喜んで描くことができるようにす  
る。

- 2 いろいろな描画材料を気軽に使え  
るようにする。

- 3 用意や片付けができるようにす  
る。

##### 5才児

- 1 見たこと、したこと、考えたこと  
などを表現することに興味をもつよ

うにし、思想感情をさらけ出させ、  
表現の喜びを味わせる。(すすんで  
描く態度があらわれることを予想す  
る)

- 2 材料や用具をたいせつにし、じよ  
うずに使うようにする。

- 3 友だちと協力して描くこともでき  
るようにする。

註 目次案には「見たこと」「思想感情  
をさらけ出させ」の意は含まれていな  
い。

4才児2の「気軽に使えるようにし」  
は、むずかしいと思わせない、おつく  
うがらせないの意。目次案には、「経  
験した描画材料を自由に使えるように  
し」とある。自由自在に使いこなせる  
という意であろうか。

#### 工作(作る)

##### 3才児

- 1 身近かにある材料に親しみ、自由  
にもてあそんだり、作って遊ぶこと  
に興味をもたせる。

##### 4才児

- 1 扱いやすい材料で物を作ることに

興味をもたせる。

2 材料を使う経験を豊かにする。

3 喜んで作り、用意や片付けができるようにする。

### 5才児

1 身のまわりの材料を使って作る喜びを味わせる。(すすんで作る態度があらわれることを予想する)

2 いろいろな材料に注意をはらうようにする。

3 材料や用具をたいせつに扱い、じょうずに使うようにする。

4 友だちと協力して作ることもできるようにする。

註 「すすんで作る、完成の喜びをもつ」の意は、5才児1の中に含めて考えた。

### 図案(組み立てる)

#### 3才児

1 身のまわりにある形や色に関心や興味をもたせる。

2 遊びの中で形や色を使う経験をさせる。

#### 4才児

1 形や色やその組み立てに関心や興味をもたせる。

2 形や色の組み立ての経験をさせる。

#### 5才児

1 形や色のとり合わせや組み立ては興味をもたせ、秩序のある美しさを感ずるようにする。

2 くふうして組み立てる経験をさせる。

3 単純な形や色の名を知るようになる。

註 「組み立て」「秩序のある美しさ」など、図案の意味を明らかに感ずるようにした。

### 鑑賞(見る)

#### 3才児

1 身近にあるものを見ることに関心をもたせる。

#### 4才児

1 身近にある造形品や自然物を見る経験を豊かにする。

#### 5才児

1 造形品や自然物を、興味をもち注

意して見るようにし、その美しさを、役にたつことや、とり合わせや、材料などに関心をもたせる。

2 環境を美しくすることに関心をもたせる。

3 ものをたいせつにすることにも注意をむける。

(註) 目次案では「美しいもの」にこだわりの過ぎ、鑑賞ということが狭い意味に受けとられる。

鑑賞の目標としては、美を味わうことばかりでなく、理解の面や使用の立場も考えるのが当然であろう。その要素は美のかけにかくれてしまっているように思う。

以上私の気のついた大まかな点のみを記したわけであるが、指導内容その他細部はこの稿では割愛する。

\* \* \*